

支えあい ともに笑顔で暮らすまち「にいがた」

さわやか通信

北区社協だより



飛鳥井 俊晴 副会長

五十嵐 隆吉 会長

栗原 睦夫 総務広報部長

つながる未来へ 葛塚東コミュニティ協議会のこれからを語る ～地域福祉活動計画策定 × 支え合いのしくみづくり～

Q1 コロナ後の地域の変化と、つながりの再構築についてどう感じていますか。

栗原 コロナ禍で子ども会行事や美化活動の参加が減り、行事を再開しても人が集まりにくくなりました。だからこそ、納涼会や祭りなど、**世代を超えて顔を合わせられる場を継続することが、つながりの再構築につながる**と感じています。

五十嵐 学校やクラブ活動も止まり、「コミ協活動は終わった」と思うほどの時期がありました。今は少しずつ人が戻っています。災害時の助け合いは日頃の関係づくりが基盤になるので、**まずは顔の見える関係を取り戻すことが最優先**だと考えています。

Q2 「顔の見える関係づくり」を、これからどのように続けていきたいですか。

栗原 祭りやソフトボール部の除草作業後の懇親会など、**自然に人が集まり、話せる場**が関係づくりのきっかけになっています。こうした場をこれからも増やしていきたいです。

飛鳥井 行事を通じて「おめさん元気だったかね」と声を掛け合える関係が生まれます。参加の積み重ねが担い手育成にもつながるので、**まずは地域に出てきてもらう機会をつくり続けることが大事**だと思っています。

Q3 子どもの減少や担い手不足の課題に、どう向き合いますか。

飛鳥井 三世代同居が減り、アパート世帯が増えたことで、地域との接点が薄れています。行事に参加すれば気持ちが豊かになり、人間関係の潤滑剤にもなるので、**参加したくなる行事づくりを続けることが課題解決の第一歩**だと考えています。ただ、役員の引き継ぎが難しく、来てくれた人だけでまかなう現状には悩みもあります。

五十嵐 少子化と高齢化がさらに進む6年後を見据えると、向こう**三軒両隣の精神を取り戻すことが不可欠**です。学校も含めた地域総がかりの体制をつくり、支え合いの基盤を強めていく必要があります。

Q4 次期の地域福祉活動計画の期間が6年ですが、葛塚東地区が6年後どのような地域になってほしいですか。

栗原 若い人も高齢の方も、一人暮らしの方も行事に参加してほしい。**助け合いの輪に自然と入れる地域**になってほしいです。

飛鳥井 声を掛けたら積極的に参加してくれる地域にしたいです。参加すれば達成感があり、気持ちも豊かになります。**「参加してよかった」と思える地域行事を続けたい**です。

五十嵐 小さな参加が、地域の大きな力になります。**みんなで助け合える地域であり続けてほしい**と思っています。

P1

- つながる未来へ
葛塚東コミュニティ協議会のこれからを語る
～地域福祉活動計画策定 × 支え合いのしくみづくり～

P2, P3

- 新潟市社会福祉協議会会員会費
- 地域ふれあい助成事業
- 福祉教育 ともに生きる力
- 認知症力フェ
- 賛助会員紹介
- 地域の茶の間ととし丸

P4

- 自治会長リレートーク
- 北区ボランティア・市民活動センター
活動報告、きっかけづくり講座
- 北区社会福祉協議会介護事業所
- 寄附のお礼